

林外務大臣とブリンケン米国务長官による
「新型コロナ対策(グローバル行動計画)に関する外相会合」
林外務大臣メッセージ(日本語仮訳)

御参加の皆様、お忙しい中お集りいただき感謝。
新型コロナの収束に向けたトニーの貢献と米国のリーダーシップを称賛する。
トニーと共に、この閣僚級会合を共催できることを大変嬉しく思う。

新型コロナの終息にはまだ時間がかかる。先週(7月13日)のWHOによる報告では、感染者数が世界的に見て5週連続で増加している。我々は引き続き対策を維持・強化し、強い意志を持ってグローバルに行動し続ける必要がある。

日本は、世界の新型コロナ対策について、これまで約50億ドル規模の貢献を行ってきている。また、グローバル行動計画の柱①ワクチン接種の促進のリード国の一つとして、包括的なワクチン関連支援を展開するとともに、現場レベルでのステークホルダー間の連携を促進してきた。また、柱⑥将来のパンデミックにより良く予防し、備え、対応するためのグローバルヘルス・アーキテクチャーの強化に向けた議論にも積極的に貢献している。

日本は、COVAXへの最大15億ドルの財政的貢献や現物供与の他、「ラスト・ワン・マイル」支援を通じて、輸送から接種まで、ニーズに合わせたテイラーメイドな支援を進めてきた。日本は、超低温冷凍庫やワクチン保冷輸送車等の供与を通じて、扱えるワクチンの種類の多様化や安定的な供給体制の構築に貢献しており、ワクチン忌避を減ずるための取組も行っている。「グローバル行動計画」は、こうした支援に際する現場での情報共有と連携の円滑化に貢献している。

我々は、今回の危機で露呈した国際保健に関するガバナンスとファイナンスの脆弱性に対処し、将来の健康危機へのより良い予防・備え・対応（PPR）に資する基盤を強化しなければならない。より良い健康安全保障に繋がるグローバルヘルス・アーキテクチャーの強化に向けた様々な議論の結果を収斂させねばならない。強力なグローバルヘルス・アーキテクチャーは、代表性・正統性・有効性を確保すべきである。

先般、世銀で承認された金融仲介基金（FIF）の設立を歓迎。日本は、FIFの9月の運用開始に向け、初期貢献として1千万ドルの拠出を決定した。今後、FIFに適切なガバナンスの仕組みが構築されることを見極めた上で、更なる追加の貢献を検討する。

日本は、地域の中核拠点として、ASEANの公衆衛生の危機や新興感染症への準備・探知・対応能力を強化することが期待される、ASEAN感染症対策センターの本格稼働に向けて財政面や技術研修の実施、専門家の派遣準備などの形で全面的に支援してきている。また、アフリカCDCにJICA関係者を派遣する等協力関係の強化に取り組んできている。8月27-28日にチュニジアで開催される「第8回アフリカ開発会議」は、アフリカにおけるPPRのための国際的なパートナーシップを強化する絶好の機会となる。

日本は、来年のG7議長国として、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）の達成を念頭に、積極的にグローバルヘルス・アーキテクチャーの強化に貢献していきたいと考えている。こうした国際的な取組には、WHOにおける国際保健規則（International Health Regulations: IHR）2005の的を絞った改正や、パンデミックへの備えと対応に関する新たな国際文書策定の交渉も含まれる。

本日の議論を通じて、現下のパンデミックを克服し、将来のパンデミックへの備えと対応を強化するという我々のコミットメントを再確認できることを期待している。

（了）